

々皆既日食の観測遠征のために諸所へ出張した。其のうち、かの1919年5月29日の日食には南米ブラジルに出向し、太陽附近を通過する恒星の光線の屈曲を観測して、アインシュタイン氏の相対原理を立證したことは、有名で、又、最も大きい功勞の一つであつた。

クロムメリン博士は、1888年にロイヤル天文學會の Fellow となり、1917年から1923年まで同會の幹事を勤め、1929—1931年には其の會長となつた。又、1904—1906年には大英天文協會の會長となり、又、多年にわたり、同會の彗星課の課長であつた。

クロムメリン氏はグリニチ天文臺に36ケ年間勤務した後、1927年5月に退職したが、しかし、好きな方面の研究は、晩年に至るまで止めなかつた。夫人は Robert Noble 師の娘で、Letitia と言ひ、氏と1897年に結婚したが、1921年に逝去された。夫妻は2男2女を有つてゐられたが、長男と次女とはさきに死去された。

自分は多年クロムメリン博士と交り、殊に彗星や小遊星の軌道について、度々交信し、1924年12月には、ロンドンで、大英天文協會の例會席上で始めて面談したこともある。博士は、當時、日本のことや、故中村要君のことなど、いろいろと話された親切を、今でも忘れられないものとして、鮮やかに記憶してゐる。(山本記す)

問ひ。 日本に於ける彗星発見の年月日と、発見者及び彗星名。(いろは生)

答へ。

- 1903年7月15日、新彗星(“ボレリ”), 横濱市, (故)井上四郎氏。
- 1919年10月19日、新彗星(“メトカ1フ”), 京都大學天文臺, (故)佐々木哲夫氏。
- 1919年10月26日、新彗星(“フィンレイ彗星”), 京都大學天文臺, (故)佐々木哲夫氏。
- 1920年5月25日, “第二テムベル彗星”, 京都大學天文臺, 百濟教猷氏。
- 1922年11月29日, “ベライン彗星”, 京都大學天文臺, 百濟教猷氏。
- 1925年6月, “第二テムベル彗星”, 大阪, 百濟教猷氏。
- 1925年12月3日, 新彗星(“ベルテヤ・キルク”), 長野縣, 田中靜人氏。
- 1930年11月13日, 新彗星, 京都大學花山天文臺, (故)中村 要氏。
- 1932年7月17日, 新彗星, 米國加州プロ11村, (故)長田政二氏。
- 1936年7月17日, 新彗星, 東京, 下保 茂氏。
- 1937年1月31日, “ダニエル彗星”, 静岡縣島田町, 清水眞一氏。
- 1939年4月23日, 新彗星(“ハセル”), 倉敷天文臺, 岡林滋樹氏。
- 1939年11月13日, 新彗星(“フレンド”), 倉敷天文臺, 岡林滋樹氏。